

産地戦略

実施期間 令和9～13年度

実施主体 ●●●●●協議会
都道府県 ●●●県
対象地域 ●●市、●●町
対象畜種 ●●

- 産地戦略の策定にあたっては、様式を任意としております。本資料はあくまで参考例としてお示しするものですので、実情に応じて適時調整の上、御活用ください。
- 本Sheetの赤字は記入例です。産地戦略策定時の参考にしてください。
- 産地戦略には、原則、事業実施計画書で検証するとして**全ての技術**について記載してください。なお、検証の結果、地域に導入することが困難であると判明した技術については記載する必要はありませんが、導入が困難である要因等を分析した資料（要

環境負荷低減の取組の分類

- アミノ酸バランス改善飼料の給与 牛の暖気中のメタンを削減する飼料添加物（3-ニトロオキシプロパノール、カシューナッツ殻液）を含む飼料の給与
- 肉用牛へのバイパスアミノ酸の給与 ● その他畜産由来の温室効果ガスの削減に資する技術（**強制発酵施設での家畜排せつ物の処理**）

目指す姿

* 現状（環境負荷低減の取組状況、諸々の課題）を踏まえて記載してください。

現在の飼養体系

	育成期（～12か月）	肥育中期（～20か月）	肥育後期（～30か月）	備考
主な作業名	配合飼料の給与			事業実施地域における一般的な飼養体系を記載してください。特に、「環境にやさしい飼養技術」に対応する技術を記載してください。
	堆積発酵による排せつ物処理			

「飼養マニュアルに記載している場合は、飼養マニュアルに記載のとおり」等として省略可。

グリーンな飼養体系

	育成期（～12か月）	肥育中期（～20か月）	肥育後期（～30か月）	備考
主な作業名	配合飼料の給与		アミノ酸バランス改善飼料の給与	「環境にやさしい飼養技術」がどの作業工程に取り入れられるのかが分かるように記載してください。
	開放型強制発酵による排せつ物処理			

グリーンな飼養体系等の取組頭数の目標

	事業実施年 (令和8年度)	普及目標年 (令和13年度)	備考
(参考) 対象畜種の頭数 (頭)	3000	▶ 3000	● 取り入れる技術に応じて取組頭数の目標等が異なる場合は、行を追加する等で分かるように記載してください。 ● 原則、事業実施計画書と同じ数値を記載してください。 検証結果等を踏まえて頭数や普及農家戸数を変更する場合は、「備考」欄に変更の理由を記載してください。 特に、事業実施計画に記載した頭数を下回る変更を行う場合には、対外的に説明可能なよう、理由等を十分に検証・整理してください。
グリーンな飼養体系の取組頭数 (頭)	20	▶ 900	

グリーンな飼養体系等の普及農家戸数割合の目標

	事業実施年 (令和8年度)	普及目標年 (令和13年度)	備考
(参考) 対象農家の戸数 (戸)	50	▶ 48	当地域は毎年5%程度の離農率であるため。
グリーンな飼養体系の普及農家戸数 (戸)	2	▶ 18	
グリーンな飼養体系の普及農家戸数割合 (%)	4	▶ 37.5	

環境にやさしい飼養技術の概要

〈技術の内容・効果〉

産地の慣行	取り入れる技術	期待される効果
CP値○○の配合飼料を給与（環境負荷低減への取組はなし）	▶ CP値○○のアミノ酸バランス改善飼料	牛の暖気中のメタン5%削減
堆肥舎で堆積型発酵	▶ 強制発酵施設での処理（スクルー式攪拌装置）	家畜排せつ物由来のメタンの排出量95%の削減

グリーンな飼養体系の普及・定着に向けた取組方針

* どのようにグリーンな飼養体系の普及・定着を図っていくか記載する

関係者の役割

関係者名			
役割			

その他